

平成 22 年 5 月 28 日

島田市の保育園
幼稚園 保護者 様
小学校
中学校

島田市教育委員会
委員長 小関秀利

(島田市教育委員会からの提言 その1)

喜びの力がわいてくるときを

そのようなときがあるでしょうか……。残念ながら、ふだんはあまりありませんね。でも、もしも、ふだんの生活の中で**喜びの力**がわき出るとすれば、それにまさるものはないと思います。何といても**生きる力**がわいてくるのですから。

喜びの力がわいてくるときは、ぐっと前へ踏み出したくなり、目が輝き、にこやかな顔になり、声まで明るくなります。大人であっても子どもであっても。

それはどんなときか——。例えば、バイパスのインターぞいのごみを拾っていて、「ありがとう」と声を掛けられたとき。お年寄りの肩をたたいて、「ありがとう」とにっこりされたとき。朝の仕事場の机を拭いていて「いつもありがとう」と挨拶されたとき。家の玄関を掃いていて「ありがとう、きれいになったね」と喜ばれたときなどなど。

こんなささやかなことが、人を喜ばせ、人から感謝される。すると、「自分も人に喜んでもらえることができるのだ」という素朴な喜びを感じます。この喜びこそが**生きる力**を生み出します。

自分のためならたいした力を出せなくても、人のためなら何倍かの力が出せるときがありますね。そうして人から感謝されると、自分の中に喜びが生まれ、**生きる力**がわいてきます。

医師であり小説家である加賀乙彦かがおとひこ氏が、最近の著書（「不幸な国の幸福論」の中で述べています。「**人のために何かするということ**。それこそが、『私は必要とされている』と実感できる**最も簡単な、そしてだれにも可能な方法**です」と。